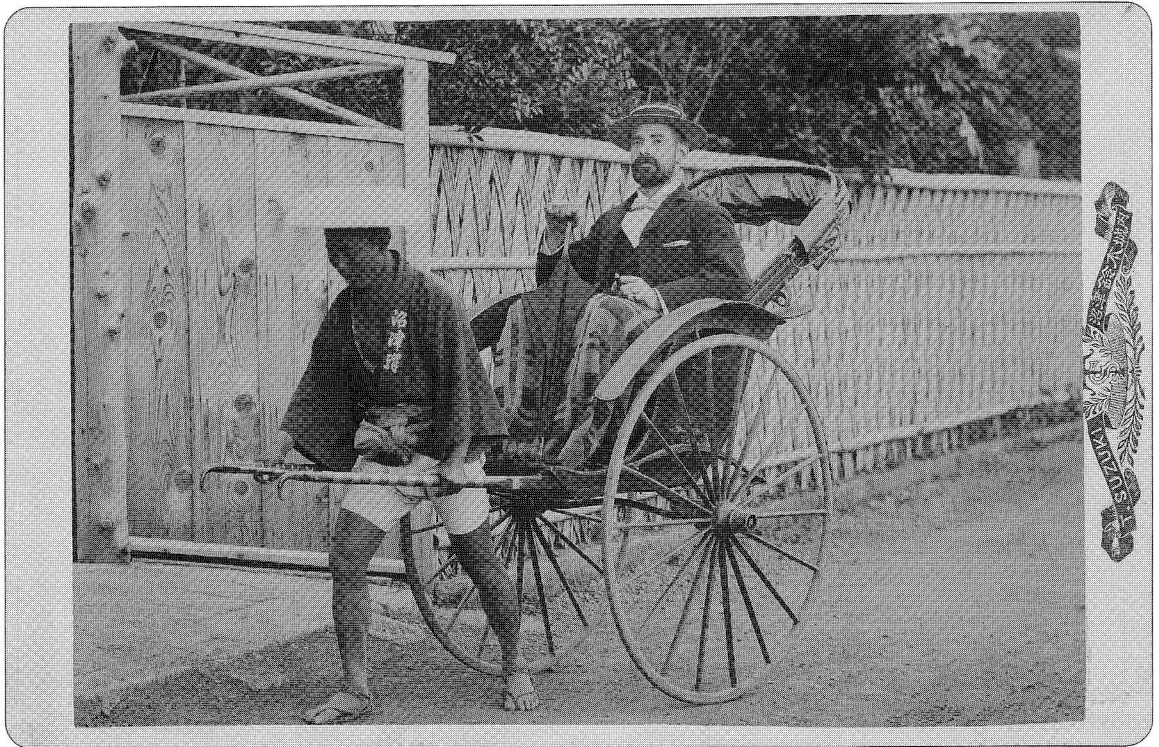


沼津市

明治史料館通信

1997. 7. 25 (季刊 年4回発行) Vol.13 No. 2 通巻第50号



沼津垣を背景に人力車に乗る外国人
(当館所蔵)

撮影した写真師は沼津町城内の鈴木忠視。明治後期の写真であると思われる。

沼津垣

ぬまづ近代史点描 ③④

沼津垣とは古くから沼津周辺で作られ使用された、竹を編んだ網代垣の一種である。箱根や伊豆に自生する篠竹を素材としたこの垣根は、強い海風から建物等を守るため、この地で暮らす人々が生み出した生活の知恵である。「沼津垣」という名称は、『東海道名所図会』などで知られる読本作者秋里籬島が著した文政十年(一八二七)刊行『石組園生八重垣伝』という書物が初出というが、もちろん実物はそれ以前から存在した。

寛文元年(一六六一)刊行の浅井了意著『東海道名所記』の沼津の箇所挿絵中にも、それらしき垣根が描かれている。近世中期には確かに存在したと考えてよさそうであり、さらに中世以前にまでさかのぼる可能性もある。尾張藩士高力種信(猿猴庵)が天明六年(一七八六)に江戸への道中を絵と文章で記録した「東街便覧図略」にも沼津垣は描かれている。原宿の街道風景と今沢村の椿林の図である。文章中にも「惣て此辺の垣根は皆竹にてあみ

たるにいろ／＼の形を作れり菱或は石た、みなど、あじろのことくなるもあり」とあり、この地域特有の垣根は旅人から注目されたことがわかる。さらに「其細工実に奇術と云へし」と技術の高さに感心している。

浮世絵に描かれたものとしては初代広重の行書東海道や人物海道をはじめ、二代・三代の広重の作品にも見られ、天保期から幕末維新时期には沼津の風景を代表する名物になっていたことがわかる。

明治二年（一八六九）日本で初めて実施された近代的人口統計調査である静岡藩の「沼津政表」「原政表」には、沼津宿では「工」として大工以下四十二種三百二十三人、原宿では十五種二十三人の職人が数えられているが、植木師は原の一名のみであり、沼津には庭師・植木師はいない。沼津には造園の専門者は存在しなかったのであろうか。それとも専門の職人は周辺の農村にいたのであろうか。近世において沼津垣は、農民の中で技術を有した非専門的な職人が作っていたと考えるべきか。

シリーズ

沼津兵学校とその人材

47

高島茂徳の死

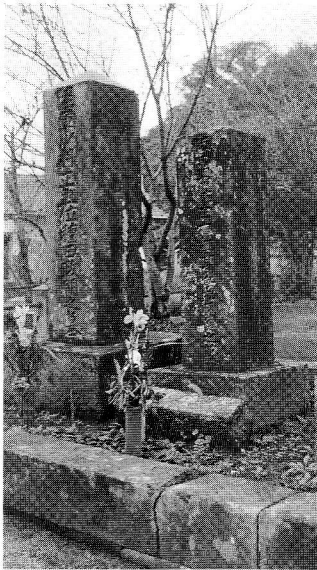
沼津兵学校の教授・生徒出身の軍人には西南戦争で戦死した者が数名いる。しかしその一年前、明治九年（一八七六）に起きた神風

連の乱で落命した者は一人だけかと思う。

神風連（敬神党）は復古的攘夷主義に凝り固まった旧熊本藩の不



高島茂徳
（福田正一氏寄贈）



高島茂徳の墓 熊本市花岡山
（熊本市立博物館富田絃一氏提供）

高島の墓は熊本市の花岡山にある官軍墓地内に司令官種田政明少将の墓と並んで立っている。正面には「陸軍中佐正六位高島茂徳之墓」とあり、側面には中村正直による墓誌が彫られている。文中には「為静岡藩兵学校教授」という一節もある。なお、この碑文は『敬字文集』巻六（明治36年刊）にも収録されている。

平士族の集団で、その年三月に発せられた廃刀令に反発して、反乱を引き起こした。十月二十四日、不意を襲われた熊本鎮台司令官種田政明陸軍少将や熊本県権令安岡良亮らは殺害された。神風連は七隊に分かれ行動したが、第三隊の襲撃対象とされたのが熊本鎮台参謀長をつとめていた陸軍中佐高島茂徳である。高島宅に突入した神風連は何の抵抗も受けず、狼狽して逃げようとした高島が庭の池に落ちたところを討ち取った。

高島茂徳は沼津兵学校三等教授だった人物である。旧名を四郎兵衛・四郎平といい、弘化三年（一八四六）幕府同心福田好政の三男に生まれた。実兄の福田重固（作太郎）は勘定方の役人から歩兵頭にまでなった人で、文久の遣欧使節にも加わり、静岡藩では用人などをつとめ、明治政府出仕後は内務省などで電信事業に貢献した。茂徳は西吉十郎に英語を学び、文久元年（一八六一）番書調所英語句読教授出役、翌年英学世話心得となった。高島家の養子となったのは元治元年（一八六四）十一月

のことであった。

養父は高島秋帆。高島流砲術の創始者であり、我が国洋式軍制の始祖的存在である。茂徳がその養子になったのは、秋帆の実子や孫が次々に死亡したためである。茂徳が養父秋帆とどのように接したのかは不明であるが、名高い砲術家・兵学者の跡継ぎとして、自分の立場を強く意識したであろうことは想像に難くない。

英学者から出発した彼の履歴はその後軍人としての履歴に変わる。幕府瓦解時は砲兵差図役頭取勤方。そして静岡藩では沼津兵学校三等教授に就任したのである。

明治三年（一八七〇）十月明治政府に出仕し、陸軍兵学寮や士官学校に勤務、七年（一八七四）陸軍中佐に任じられ、八年には熊本鎮台参謀長として赴任した。

武士の魂である刀を失うことに反発した者たちの手になる茂徳の死は、養父秋帆が武士に失業をもたらず砲術・洋式軍制の導入者であったことと考え合わせると、変革期の歴史における運命の皮肉ともいえる。

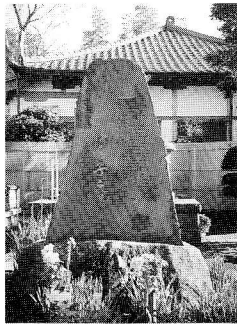
江原素六とその周辺<28>

富士郡大宮町・角田家と江原

明治十五年（一八八二）、江原素六は一切の公職を辞し、カナダ・メソジスト教会の一伝道師として布教活動に従事するに至った。前年に瀕死の病から奇蹟的に回復し、二度目の洗礼を受けたのがそのきっかけであった。

『江原素六先生伝』（大正十二年刊）に掲載された年譜には、以後二十年（一八八七）の欄まで「吉原大宮に於て伝道に従事す」「静岡県下にて伝道に従事」という記載が続いており、他の事項はほとんどなく、まさにこの時期彼が伝道に専念したことがわかる。そのことは彼の日記からも裏付けられる。

この時期、江原が特に親しく交



角田虎吉・いち子夫妻の墓
(富士市大頂寺)

際した人々に富士郡大宮町（富士宮市）の素封家角田家があった。江原によってキリスト教の信仰へ導かれた熱心な信者に角田以知子（いち、明治三十八年七十三歳没）がいる。その夫角田虎吉（一八二二～九一）は大宮町で薬屋を営んだ有力商人である。大宮教会は明治十七年（一八八四）に民家を借りて吉原教会の出張所が置かれたのが端緒であり、江原が毎日曜日に出張して伝道にあたったというが、その民家とは角田虎吉宅かと思われる。江原文書の中には虎吉の息子雄五郎や以知子が素六に宛てた手紙が残されている。

虎吉夫妻とともに江原の伝道を助けた有力者が、本家の角田鉄太郎・八重子（やえ）夫妻である。鉄太郎は、大宮町の組頭・年寄をつとめ不毛の地であった万野原の開墾に取り組んだ角田桜岳（与市、一八一五～七三）の長男である。江原とは静岡藩士による万野原開墾などの事業を通じて旧知の間柄であったようだ。鉄太郎の子鉄一郎（一八六九～一九一六）は江原が校長をつとめた沼津中学校に学び慶応義塾に進学、新聞記者から文芸評論家となり、浩々歌客の号で知られる。その弟佐野天聲も文士である。もうひとりの弟角田喜三郎が大宮町に図書館を建設しようとした際に、江原は文部官僚の岡田良平・一木喜徳郎に紹介状を書いており、その中で角田家が祖父桜岳以来地域に貢献した篤志の家であることを陳述している（『江原伝』逸話P60）。江原文書には現在、喜三郎が素六に宛てた手紙、八重子が素六の次男の妻三重子に宛てた手紙などが残されており、長く家族ぐるみの付き合いを続けたことがわかる。

なお洗礼を受けたのがはつきりしているのは以知子・八重子・雄五郎らであり、虎吉・鉄太郎については不明である。

〈参考文献〉『富士宮市史』上巻、『東海三州の人物』、『日本基督教団吉原教会百年史年表』、『慶応義塾入社帳』など。

お知らせ欄

◎企画展「60年前の家族の肖像
―出征兵士を送った原町の人
びと写真展―」の開催

今年、日中戦争が開始された昭和十二年（一九三七）から六十年目にあたります。そこで当時出征した兵士の慰問品として前線へ送るために撮影された原町の留守家族の写真を展示します。

百枚以上にのぼるこれらの写真



は、アルバムに貼られ原小学校に保存されてきました。撮影は、駿東郡原町の軍人後援会が昭和十二年十二月に行いました。写真屋が各家庭を回って撮影したものと思われ、当時の家族構成や日常の服装・髪形など、戦争を背景とした時代の断面が切り取られているといえます。戦時下の歴史資料としてはもちろん、民俗資料としての意味も有しています。

古き時代の家族の面影に思いを

馳せ懐かしさを感じていただくと同時に、実はこれらの写真には各家庭にとってかけがえのない大切な人が写っていないという点を忘れず、戦争が家族や個人にもたらすものが何であるのかを認識していただければ幸いです。

期間…7月1日（火）から8月31日（日）まで

会場…4階展示室

◎史跡めぐりの開催について

左記の通り史跡めぐりを3回にわたり実施します。マイクロバスで市内の史跡を学芸員の説明により見学します。参加希望者はお申し込み下さい。

①江戸時代の沼津 史跡めぐり 8月1日（金）

②明治時代の沼津 史跡めぐり 8月8日（金）

③平和を考える戦争史跡めぐり 8月15日（金）

時間…午前9時から午後4時まで
対象…いずれも小中学生とその保護者

定員…各10組20名

費用…無料、ただし弁当持参のものと。

申込み…電話で当館まで

◎古文書解読入門講座の受講生を募集します

古文書に初めて接する方を対象にした入門講座です。申込みは当館まで電話で。受付開始8月7日。

日程…8月31日、9月7日、14日、21日、28日の毎日曜日、計五回

時間…午後2時から4時まで

会場…当館講座室

講師…久保田富氏（沼津市史編集専門委員）

費用…無料。古文書辞典をお持ちでない方には斡旋します。

◎「沼津市史」史料編・近代1が刊行されました

当館収蔵史料も多数収録されています。内容は明治時代の史料。八二六頁、七〇〇円。お買い求めと問い合わせは市史編さん係（☎二五―八二五〇）までどうぞ。

沼津市明治史料館通信 第50号

編集 沼津市明治史料館
発行

〒410沼津市西熊堂三七一―一
電話〇五五九―三三三三五
FAX〇五五九―二五三〇一八